

教育機会確保法成立後 初の公立夜間中学の開設

地域の
特色ある
活動

埼玉県川口市教育委員会

1 はじめに

旧国立競技場の聖火台に代表される“鑄物の町”として有名な川口市は、埼玉県の南端に位置し、荒川を隔てて東京都に接するという交通の利便性を生かしながら、伝統ある“ものづくりのまち”として活力あるまちづくり・人づくりを目指しています。

平成30年4月1日からは、中核市へ移行し、現在、人口60万人を有しています。近年は外国人住民が増加し人口の約5%を占めていることから、言葉や生活マナー、日本の文化への理解も課題の一つとなっています。

2 「夜間中学」設置の経緯

平成28年12月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（以下「教育機会確保法」）が成立したことを契機として、本市の実態を踏まえ平成29年3月に、奥ノ木 信夫 川口市長が夜間中学の設置を表明しました。

そこで、本市教育委員会では、平成29年度から、文部科学省より「中学校夜間学級の設置促進等推進事業」の委託を受け、具体的な準備に入りました。

まず、取り組んだのは先進地への視察です。本市が目指す夜間中学をどのような学校にするのか、イメージを掴むためにも先進地への視察は大変重要でした。視察先の教育委員会及び学校から、歴史ある夜間中学の取組と現状について情報を得られたことは、準備を進める上で大きな収穫となりましたが、そ

うした情報以上に価値があったのは、そこで学んでいる生徒の皆さんの学びに向かう姿勢を見ることができたことでした。表情はいきいきとして、勉強するだけでなく学校生活そのものを楽しんでいることが伝わってきました。そうした姿から、本市に開設される夜間中学も、学習経験の差や年齢、国籍など様々な垣根を取り払い、生徒一人一人が輝ける学校にしたいという思いが確信に変わりました。

次に、県教育委員会とも連携を図りながら本市を含む埼玉県内近隣12市においてニーズ調査を実施しました。有効回答数1,246のうち387人が夜間中学への入学に前向きな意向を示しているという結果を得ることができました。本市における夜間中学の規模を決定する上で大変重要なデータを収集することができました。

平成30年度に入り、市民向け説明会や県内3市の会場で学校説明会を実施し、教育課程や

入学手続きについて説明を行いました。入学希望の受付は、8月の説明会後から開始し、毎月10人程度の申し込みがあり、全ての方と面談を行った上で最終的には77の方が4月から入学することとなりました。



3 夜間中学開設に向けたコンセプト

本市に開設される夜間中学は、埼玉県内初の公立夜間中学となるため、入学を希望する

方々を幅広く受け入れたいとの考えから、「市民・県民の学ぶ意欲に応え誰もが安心して通える夜間中学」を第一のコンセプトとして掲げました。このコンセプトの実現に向けて、入学要件には「県内在住」の方を対象とし、就学経験や国籍は要件としないこととしました。

また、「教育機会確保法」成立後初の開校となることを踏まえ、第二のコンセプトを「これまでの夜間中学から新時代の夜間中学へ」としました。「教育機会確保法」には、義務教育相当の教育を十分受けていない者に対し、「その能力に応じた教育を受ける機会が確保されるようにする」と示されていることから、夜間中学での学びは、特に「個に応じた指導」を充実させる必要があります。そして、それぞれの夢や希望、進路の実現を支援することができるよう指導内容を工夫していくことを特に意識しました。今後は、夜間中学専用の校舎の建設についても準備を進めており、より充実した環境を提供することができるようになります。それに併せて、教職員の指導力向上についても一層充実させたいと考えています。

4 開校後の取組について

年齢や国籍、日本語の習得状況や就学経験の違いなど、様々な状況の方が在籍している夜間中学では、個に応じた授業を行うことが大切であると考えています。例えば、数学では学習の理解度に応じた少人数指導を行ったり、体育では年齢別、体力別に分けて運動量に差をつけながら実施したりしています。また、美術や技術、家庭科のような製作や実習といった内容を含む教科については、効率よく作業が進むよう、授業の期間をまとめて設定するなど、工夫した教育課程の編成をしています。

さらに、本夜間中学は分校として開校いたしました。学校行事においては、運動会や合唱コンクールなど、本校生徒と一緒に活動でき



るものについては交流を図りながら実施しています。

夜間中学の生徒の中には、勉強だけでなく「学校生活そのもの」をやり直したいという思いをもった方もいます。夜間中学の生徒の学びに向かう姿勢は、本校生徒に「学ぶことの意味」を改めて感じさせてくれます。一方で、夜間中学の生徒も本校生徒のエネルギーあふれる姿から刺激を受けており、交流を通して、双方の生徒にとって大変意義のある教育活動を展開することができています。

5 おわりに

夜間中学には「学びの原点」があります。生徒一人一人に「学びたい」という純粋な気持ちがあり、これまでの経験や年齢・国籍に関係なくその目はきらきらと輝いています。そして、先生方は、下校時に「今日もありがとうございました。楽しかった」と満足気な表情で学校を後にする生徒から元気をもらい、「次は、どうやって教えようか」と改めて教えることの楽しさと教師としてのやりがいを感じるのだそうです。生徒がひたむきに頑張る姿とそれに必死で応えようとする教師がそこにいるのです。まさに本市が目指す夜間中学、そして、学校の理想の姿がそこにあります。



本市の夜間中学は、開校1年目であり、まだまだ課題も多くあるところです

が、より充実した教育活動が展開できるよう引き続き教育行政を推進して参ります。



教育長
茂呂 修平